

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【泉南地域の中核的公立高校として、思いやりのある人材を育成し、地域に信頼される学校をめざす。】

- 1 課題解決能力（主体的に課題を発見して、ICTを用いた情報収集、論理的に思考する力）および発表する能力を育み、「確かな学力」を育成する。
- 2 グローバルな視点を持ち、「自己実現」と地域社会に貢献できる人材を育成する。
- 3 思いやりのある人間性を育み、未来の創り手となる人材を育成する。
- 4 生徒の成長とともに、教師も学びながら新たな課題に取り組む同僚性の高い学校組織を構築する。

2 中期的目標

- 1 「**確かな学力**」を育成する。
 - (1) 学びを人生や社会生活に活かせるよう、早期にキャリアを展望させ、働く知識・技能の習得など、新しい時代の変化の中で学び続けられる資質・能力の育成をするため、主体的・対話的・深い学びの視点からの授業改善に取り組む。
 - ア 相互授業公開や研究授業、1人1台端末の活用、他校好事例の見学。
 - イ ICT機器を効果的に利活用し、協働的な学びと一斉学習を併存的に展開し、学びの深化を図る。
 - (2) 学校教育自己診断および授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（R1年度 65.7%、R2年度 59.2%、R3年度 57.3%）を毎年引き上げ、R6年度には70%にする。
- 2 **地域に根差した高校**として、「**自己実現**」「**自律心**」を育成する。
 - (1) 自らの学習状況やキャリア形成を見通し、それぞれがより高い進路実現をめざす。

※国公立大学、公務員就職者は少なくとも一人ずつ、難関大学と看護医療系学校（H30年度 35名、R1年度 52名、R2年度 42名、R3年度 24名）などの合格者は毎年30名以上輩出する。

※キャリアパスポートを用いて学習の記録をポートフォリオ的に記録し、進学・就職時に活用できるようにする。
 - (2) 特色ある教育活動の充実。
 - ア 「ハートフルほいく専門コース」をさらに充実させる。
 - イ 学校行事への地域住民の参画、連携の拡大。
 - ウ 国際理解教育をさらに充実させる。
 - (3) 社会に開かれた学校づくりを更に推進し、その取組みはホームページ等を活用しての広報を充実する。
 - ア 有志による通学路清掃活動（参加率 H30年度 14.3%、R1年度 13.5%、R2年度よりコロナ対策で先着順40名に限定して実施。）を毎年実施。
 - イ 学習発表の場として地域イベントへの積極的な参画。
 - ウ ホームページのコンテンツ充実とメール発信ツールの効果的活用。
 - (4) 社会構成員としての自覚を高める。
 - ア 遅刻・早退・欠席等を減少させ、基本的生活習慣を確立する。

※全学年年間遅刻件数（R1年度 7.7回/人・年 R2年度 8.0回/人・年 R3年度 8.5回/人・年）を毎年徐々に減らしR6年度に7.0回/人・年とする。
 - イ 通学マナーの向上と広域生徒指導の定着を図る。
- 3 **思いやりのある人間性をはぐくみ**、未来の創り手となる人材を育成する。
 - (1) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実。

校内支援体制の更なる充実とともに、福祉医療関係人材・SC等外部機関との連携をより深め、障がいのある生徒、そうでない生徒、課題のある生徒、そうでない生徒等、すべての生徒の学びと育ちを支援する。

 - ア 「自尊心」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」について理解を深める教育を推進する。
 - イ **人権教育**の計画的実施と研修及び共同学習の推進。

※人権尊重の教育を充実させ、対人関係に起因するトラブルの未然防止に繋げる。
 - ウ 生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、関係機関と連携して、校内委員会を開催し、未然防止、対応、解決に向かう。
 - (2) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。
 - ア 部活動やボランティア活動を通じて、集団の中での人間関係の大切さと社会貢献の意識を高める。
 - イ 生命の尊さを問う、また新型コロナウイルス感染症に係る偏見や差別を許さないなどの人権教育を充実させる。
 - (3) 健康・美化・防災への意識を向上し、清潔で整備された安全で安心な教育環境を維持する。
 - ア **新型コロナウイルス感染症**に係る対応を充実させる。
 - イ 日々の清掃活動の充実を図るとともに、施設・設備の点検、維持管理、更新などに積極的に取り組む。

※学校施設の機能強化（安全・保健衛生・長寿命化）の為に総点検を実施し課題を抽出する。
- 4 **新たな課題に取り組む同僚性の高い学校組織を構築**
 - (1) 教育課題と向き合い、時代の変化に対応できる教職員の育成を図る。
 - ア 時代の変化に柔軟に対応できる学校文化の醸成と教員力を向上するため、組織的・計画的な授業改善研修を軸とした研修を実施する。
 - (2) 教職員の**働き方改革**と健康管理の観点から、教員一人ひとりの意識改革を推進。
 - ア 組織として業務に取り組み、時間外勤務縮減に向けた取り組みの促進や勤務時間の自己管理の徹底。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>今年度より生徒1人1台端末の貸与や、多様化を認める社会変化に対応して生徒、教員向けの一部の設問を変更している。生徒向けでは問19「学校は、生徒1人1台端末を有効に活用している」、教員向けに問5「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」が追加された。</p> <p>●生徒対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殆どの設問について、肯定的な評価が昨年度を上回っている。 ・問1「自分のクラスは楽しい」、問2「学校授業はわかりやすい」、問10「文化祭や体育祭など授業以外の学校行事に参加するのは楽しい」、問11「りんくう翔南高校の生徒会活動は活発である」、問13「学校で命と人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」、問15「教室・運動場などは、授業等の活動がしやすいように整備されている」、問17「自分は、授業や部活動で地域の人や近隣の学校と係わる機会が多い」、問20「先生は、いじめについて自分が困っていることがあれば真剣に対応してくれる」については10%を超える数値上昇があった。特に問10「文化祭や体育祭など授業以外の学校行事に参加するのは楽しい」については、63.7%➡80.4%と大幅に数値上昇している。コロナ禍により昨年度は学校行事だけに限らず、普段の学校生活にも大きな制限があった一方、今年度はほぼコロナ禍前と同じ形で学校行事で実施できたことが要因と考える。QOLを高めるために集団生活を体験することは重要であり、何より問1「自分のクラスは楽しい」と感じている生徒が増加していることは学校としても喜ばしい結果である ・問7「担任の先生以外にも保健室や相談室で気軽に相談することができる先生がいる」については唯一肯定的な評価が減少している。学校生活が正常化することが人間関係の構築が苦手な生徒にとって負担になっているケースや、コロナ禍の影響で家庭環境に変化がある生徒もあり、SCの相談件数や保健室来室が増加している。さらに教員などに相談ができていない生徒が一定数いると想定して今後もアンテナを高く張り、生徒の状況を観察し、声掛けを継続する必要がある。 <p>●保護者対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から大きく肯定的な評価が増えたのは、問10「子どもは文化祭や体育祭など授業以外の学校行事に楽しんで参加している」63.6%➡74.5%、問13「子どもは学校で、命と人権の大切さや社会のルールについて学んでいるようだ」63.0%➡73.9%の2項目。やはり、学校行事が再開したことで、学校生活について家庭で話す機会が増えていることが推察できる。学校生活の充実が家庭環境の良化にも寄与していること考える。また、人権教育についても、昨年度まで難しかった体育館に集合しての外部講師からの講演や、ICTを活用した各教室でのオンラインによる講演など、さまざまな形態で多様性を学ぶ機会を提供している。生徒が普段見せない涙を流しながら熱心に話を聞き、これまでの自分の言動について見直す旨を感想文中に記述をしていた。一人でもこういった生徒を増やすために今後も継続していく。 ・問2「子どもにとって授業はわかりやすいようだ」、問5「りんくう翔南高校では、服装や髪型の指導がきちんとされている」については8%以上肯定的な意見が減少している。これまでの授業計画や既存の教材では学習補償ができないケースや、特性に応じた生徒指導が求められるケースが増えており、個々の生徒の状況をきめ細かく把握する力や柔軟に対応することが今後一層求められる。 <p>●教員対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく問5「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」を追加している。 ・概ね半数の設問で肯定的な意見が増加、ほぼ変化なしとなっている。 ・肯定的な意見が大きく増加したのは問1「生徒は学校生活を楽しんでいると感じる」で、これは生徒対象問1「自分のクラスは楽しい」でも大きく肯定的な意見が増加したことと同じ傾向にある。 ・肯定的な意見が昨年度から大きく減少したのは、問6「生徒は、校則やマナーを守っている」69.2%➡52.0%、問11「学校として、生徒会活動の活性化について工夫している」76.9%➡64.0%、問12「学校として部活動の活性化について工夫している」88.5%➡64.0%の3設問。懲戒件数が増加しているのは事実であり、以前はあまり見られることのなかった学校敷地内や、多くの生徒が通る通学路での喫煙行為も含まれる。一部の生徒により他の生徒に風評被害が及ばないように、粘り強く指導を継続する。 <p>●クラブ活動については調査対象3者共に肯定的な評価が50%を下回っている。今年のクラブ加入率は26.6%に留まっており、昨年度と比較してほぼ同等。近隣に府立高校が所在しない本校は、一部の運動部で従来型の合同チームによる活動を継続できているが現状である。</p>	<p>【第1回 7月20日実施】</p> <p>●報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育産業の基礎力診断テストの事前学習を励行し、教科指導の評価に加えるなど活性化を進める。基礎学力の向上が課題で、入学段階での学習到達ゾーンはやや低下傾向。 ・マネープラン説明会を全学年対象で実施。3年就職説明会では保護者も参加対象にした。就職筆記テスト対策を実施。 ・紙ベースの求人票をクラウド化しスマートフォンや1人1台端末で閲覧可能となった。 <p>○外部の専門人材の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラー支援体制強化事業でSSW、CCが今年度より配置。また今年度に限り「学習支援スタッフ」を配置できている。 ・日本語指導にかかる非常勤講師や介助にかかる人材制度も活用している。 <p>○令和4年度 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉南地域の普通高校は本校のみとなるため、「中核的」という文言を取り入れた。 ・泉鳥取募集停止と機能統合にかかる詳細説明。 <p>◆委員からの意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点別に評価するのは大きな改革である。 ・観点が増えたということは生徒の良い点をすくい取り、評価しやすくなったと捉えるべき。観点別評価については本格実施から間もないところで、現状の評価基準については検証を行い妥当性について確認し、今後指導力向上につながることを期待する。 <p>【第2回 11月2日実施】</p> <p>●報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は就職希望が少なく40人未満であったが、今年度は就職希望者も61人になり1次内定率93%であった。 ・問題行動が起こらないよう事前指導を重視している。また欠席、早退やトイレ退が増加。コロナの影響で、出席停止が多くなっている。 ・基本的な生活習慣が未確立の生徒が一部ではあるが存在し、継続した指導が必要となってきた。 ・懲戒案件は、現時点約20名で増加傾向である。 ・保健室来室件数は、様々な行事が対面で実施されたことが影響して人数が増えている。来室時体調不良を訴えていた生徒が、後に悩みを相談するケースがある。また、コロナ不安の相談、行事や部活関係を通じた友人関係で悩む生徒も見られる。 ・SCの活用は今年度は26回に増回。中学校でカウンセリングを受けていた生徒が引き続き面談を希望するケースや漠然とした不安感から相談に来る生徒も見られる。コロナが終息して登校すること自体にストレスを感じていると推測する。 ・SC面談での主訴は家庭に関すること起因するものもあり、登校が困難になっているケースもある。 ・ヤングケアラー調査の回収率は97.3%で非常に高かったが、ヤングケアラーの傾向となる条件と心理的なケアが必要な条件が重複する者は1人のみであった。これからも家庭での精神的負担の大きさに気づいていない生徒がいる可能性をふまえて観察を続ける。 ・地域連携活動で夏季休業中に樽井小学校5・6年の希望児童、保護者を対象に理科実験教室を開催。本校生が実験の助手として参加。りんくうイオンモールで美術部、書道部、家庭科授業の作品展示。本校生のレシピが採用されたジェラートや天井等が5店舗で実販。色つきスライム作成ワークショップ開催。吹奏楽部による演奏。少しずつ地域連携や他校種との連携活動を広げている。 <p>◆委員からの意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席停止の要因をインフルエンザや懲戒案件等と分けてカウントしているのか。 ・喫煙行為等の指導は警察との連携も上手く活用すればよいと考える。 <p>◆協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッションについては承認。今後ポンチ絵などを付加すれば一層わかりやすくなる。 ・公立高校のポリシーは、大体「豊かな心」などになってしまう。学校のアイデンティティを見つけ出す大きなチャンスになる。この地域で求められる人材は何かということ打ち出すチャンスであり、地域の人と話し合う機会となる。 ・高校生が持つ力を発揮できる場を提供する必要があるのではないかと。まさに「地域連携」が必要になってくるのではないかと。 ・泉南市の役所と協働など役所や団体と連携して具体的な活躍の場を用意し実経験させる機会が増えることを期待する。 <p>【第3回 2月6日実施】</p> <p>●報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートについて、昨年度と比較して0.09ポイント微増した。項目別に比較しても昨年度とほぼ変化はないが、コロナ禍が収束し、学校での活動がほぼ正常化したため実技科目や行事に関しても評価は高い傾向が見られた。対面での授業に勝るものはないと判断する。 ・学校教育自己診断については、生徒、保護者、教員のアンケート結果分析。 ・進路決定状況については、大学短大、専門学校、就職の割合はほぼ例年通りで、進路未決定者は現状で9%。現在も指導中で最終的には5～6%になる見込みである。今年の特徴的なことは、動物系の専門学校の志願者が増えた。一方、募集締め切りが例年より早くっており出願が遅れると入学できない可能性がある。

府立りんくう翔南高等学校

- ・医療看護系を志望している生徒には特別講義を実施した。受講した生徒全員が合格した。医療系の仕事は看護だけでなく放射線技師や作業療法士など幅広く、高校生に知られていない分野も多いので早期からガイダンスをしていく。
 - ・学校斡旋による就職は昨年度1次内定率が約60%。今年は夏以降ほぼ毎日放課後の指導を行うことで90%を超えた。
 - ・企業の求人票は今年度からデジタルファイリング化を導入して、生徒は自宅でも閲覧が可能とした。
- ◆協議事項
- ・令和4年度学校経営計画および学校評価については、今年度の取り組み報告と自己評価について説明。泉鳥取高校との機能統合について、国際交流（オンラインで香港の学校と2回実施）、地域連携でイオンモールでのイベントに参加（あわせて本校生が考案したメニューが同フードコートにおいて期間限定で販売）。学校満足度は86.5%と12ポイント上昇、保健委員が学校の衛生面での呼びかけ、生徒会のボランティア活動、クラブ活動を通して地域の中学校と連携、校内のWi-Fiアクセスポイントの拡充、トイレの洋式化推進等で、いずれもほぼ計画通りに進んでいることを報告。
 - ・令和5年度学校経営計画については、令和4年度の評価指標を踏襲し、実態に合わせて修正。新型コロナウイルスについては削除または「感染症」としている。新規取り組みとして、校内での英語活動の充実、働き方改革推進では、週一回定時退庁日の設定、欠席連絡にICT導入、時間外での電話対応の自動音声化等の導入を進めることを説明。
 - ・令和4年度学校経営計画および学校評価、令和5年度学校経営計画について承認された。
- ◆委員からの意見等
- ・教職員の負担感がネガティブにとらえられて、教員志望者が低下しているのは社会的に問題とされている。定時退庁については、働き方改革に向けての第一歩として理解したが、特定日を定時退庁にすることで他の日の残業時間が多くなるのではないかと危惧される。既存の資源を最大限に活用して取り組んでほしい。
 - ・近隣住民としては、下校指導や通学路清掃に取り組んでいただいているのはありがたい。
 - ・きしわだ自然資料館には動物系専門学校等から学生が研修で来館する。また地域の保育所からも園児が来校する。そういった際にりんくう翔南の卒業生が活躍している姿を見る機会がある。地元の現場でよく頑張ってくれている。
 - ・例年市内の中学校卒業生がりんくう翔南高校でお世話になっている。今年も志願者が多い。引き続きご指導をお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【R3年度値】	自己評価
1 「確かな学力」の育成	<p>(1) 新学習指導要領を見据えた(主体的・対話的・深い学び)の視点からの授業改善</p> <p>(2) 特色ある教育活動の充実</p> <p>(3) インクルーシブ教育システムの更なる推進</p>	<p>(1) ア・授業の相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック。 ・アクティブラーニング等の授業方法の研究実践。 イ・授業改善を軸に、あらゆる教育活動におけるICT機器の利用拡大。</p> <p>(2) ア・グローバル人材育成のため、SDGs(持続可能な開発目標)の視点も踏まえ、国際理解教育委員会による交流行事の充実と活性化を進める。【国際交流代表団の派遣継続】 ・地域の日本語教室やNPO等と協力して、多文化理解の取組みを進める。 ・国際的共通語として中心的な役割を果たす英語力をバランスよく育成するため、英語で話す機会の確保。 イ・ハートフルほいく専門コースの充実。 ・大学、短大、専門学校との連携推進。</p> <p>(3) ア・専門家との連携、研修の充実 イ・交流及び共同学習の推進</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの結果平均3.1以上を維持する。【3.25】 ・学校教育自己診断における授業満足度を上昇させる。【57.3%】 イ・教科指導におけるICT機器の活用を増加させる。【ICT活用確認 第1回授業見学时:19人、第2回授業見学时:25名】</p> <p>(2) ア・国際交流事業を発展的に継続させる。【香港とのWeb交流11名参加】 ・地域の多文化理解の取組みへの参加を奨励する。【コロナ禍で0回】 ・英検受験者数を15名程度とする。【1人】 ・公募制推薦入試等合格者数を10名程度とする。【3人】 イ・ハートフルほいく専門コースの選択者について、進路に特化せず、親学習の観点をを入れて希望者を増やす。【20名】</p> <p>(3) ア・教職員研修及び生徒対象の講演会、担当者による研修報告会を例年並みとする。【教職員研修等4回】 イ・支援学校との交流を推進、発展させる。【コロナ対応のため未実施】</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの平均は3.34であった。(○) ・学校教育自己診断における授業満足度が12.2%上昇して69.5%になった。コロナ禍の影響が少なく、ほぼ対面の授業を実施できた影響が大きい。(◎) イ・授業見学时ICT活用者は第1回:28人、第2回24人。 1人1台端末を授業内での活用、課題や資料の配布提出をクラスルームで行う取り組みを進めている。1年探求と学びの時間、3年社会、1年情報、2年英語など。(○)</p> <p>(2) ア・海外への派遣は実施できず。代替で11月に2回、11名の生徒が「インターナショナル・カレッジ・香港」と英語と日本語でWeb交流を実施。事前に相手校の生徒と掲示板アプリで自己紹介や質問の交流を実施。引き続きグローバル人材育成を継続する。(○) ・英検受験者数は3級1人。(△) ・公募制推薦入試等合格者数は5名であった。(△)</p> <p>イ・予備調査では23名であったが、コース説明会や懇談等を経て、本調査では20名に減少した。今後も丁寧な進路指導を行い、コース選択のミスマッチのないようにしていきたい。(△)</p> <p>(3) ア・LGBTQや肢体障がいの当事者や、犯罪加害者「立ち直り」支援に取り組む方に加え在日韓国人のパフォーマーを招き教職員研修と学年ごとに講演会を計5回開催した。教職員研修での教職員の振り返りや講演会後の生徒の感想はいずれも肯定的評価が高く、共生社会の実現に繋がる結果であった。(○) イ・生徒間の交流は未実施。教員が訪問し情報をいただいた。1回(△)</p>

府立りんくう翔南高等学校

<p>2 地域に根差した高校として「自己実現」「自律心」の育成</p>	<p>(1) 自律心を高めて規律ある学校生活を送る。</p> <p>(2) 一人ひとりの希望する進路を実現する。</p> <p>(3) ウェブサイトや学校通信などの広報活動を充実させ、地域に開かれた学校づくりを更に推進する。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉指導（服装・頭髪・身だしなみ指導）を充実させ規範意識を高める。 ・式典（始業式・終業式）での校歌斉唱及び正装の徹底を図り儀式的行事感を身に付ける。 ・広域生徒指導を定着させる。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大接続改革（大学入試制度の変更：多面的評価の導入）へ対応。 ・進路実現に向けた外部模試の有効活用 ・定期考査前補習や進学希望者補習の実施と、教育産業との連携及び特講（進学補習）や夏期自主勉強週間の充実。 ・国公立大学や難関大学合格実績の継続。 ・それぞれの進路実現のサポート。（一つ上の進路目標を意識） ・指定校推薦やA0入試に頼らず、一般入試や公募制推薦入試を活用した進路実現の拡大。 ・就職希望者向けに就職講座を実施し、求人票の見方、願書の書き方、面接練習といった実践的な指導を行う。 <p>(3)</p> <p>ア・学校行事への地域住民の参画、連携の拡大</p> <p>イ・メール発信ツールやホームページを充実させる。</p> <p>ウ・地域イベントへの積極的な参画。</p> <p>エ・学校紹介の充実。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・停学を伴う特別指導案件数を昨年並みとする。【15件、23名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年総年間遅刻件数を生徒一人当たり昨年並とする。【平均5.82回】 <p>・式典時、自主的に整列ができるようにする。</p> <p>イ・広域生徒指導を例年並みに実施する。【警察との連携1回】</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを各学期に2部程度作成する。【2部】 ・外部模試受験者数を20名程度とする。【21人】 ・特講、夏期自主勉強会の企画・実施する。（新規） ・大学・短大・専門学校等の連携を2～3校とする【コロナ禍であるため1校】 ・国公立大学や公務員合格を絶やさない。【0人】 ・進路未決定者（進学浪人を含まず）を3%以下に抑える。【11%】 ・公募制推薦入試等合格者数を10名程度とする。【3人】 <p>(3)</p> <p>ア・体育祭、翔南祭への地域住民の参画を奨励する。【無観客実施】</p> <p>イ・メール発信ツールへの登録者数を増加させる。【1,278件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新やメール発信ツールを昨年並みに有効に活用する。【HP更新約100件、メール発信141件】 <p>ウ・地域連携活動を15回程度とする。【7回】</p> <p>エ・学校説明会申し込み中学生数を増加させる。【289人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校、近隣私塾へのアプローチ回数を例年並みとする。【中学校訪問延80＋私塾は3校に資料送付】 	<p>(1)</p> <p>ア・特別指導案件は23件、31名と増加した。案件事象としては軽微なものが大半を占めるが、客観的に捉えると規範意識の希薄化が進んでいる。今後は、カウンセリングマインドをもって数値の減少に努めたい。（△）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識と共に学校力が問われる数値と捉えている登校遅刻総数6,596回（生徒一人あたり平均9.9回）と増加傾向にある。トイレ退出も増加傾向にあり、授業の大切さを再認識させる必要がある。（△） <p>イ・生徒会、保護者、教職員、地元域警察署と連携し地域に根付く学校をめざし広域生徒指導を行った。（○）</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己実現に向けてキャリアパスポートを各学期に2部作成した。（○） ・外部模試受験者数は8名であった。（△） ・夏季自主勉強会を実施し、全学年で7名が参加した。（1年6名、2年0名、3年1名）。また、3年生対象に行った特講は61回実施し、11名が参加した。（○） ・連携校は短大1校、専門学校1校で計2校となった。専門学校とは関西万博に関連するチームエキスポ共創チャレンジ協力校の協定結んだ。（○） ・国公立大学、公務員の合格者は0名であった。（△） ・進路未決定者（進学浪人を含まず）は4.8%である。（△） ・公募制推薦入試等合格者数は5名であった。（△） <p>(3)</p> <p>ア・体育祭、文化祭ともに感染防止対策のもと、ほぼコロナ前の形態で実施。保護者と未就学児の弟妹のみ入場を認めたが地域住民への案内は見送った。（△）</p> <p>イ・ライデン登録者1216名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール発信44回、HP更新約80件。計120件（○） <p>ウ・「泉南イオンで文化祭」、泉南市人権委員会、近隣神社の大型絵馬制作等生徒が、計7回地域の活動に参加した。（○）</p> <p>エ・学校説明会は第3回を実施。合計の申込人数が283人（昨年度202人）。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問は昨年並みの延べ約80校。本校の特色やオープンスクールを案内。私塾対応は3回の資料送付。生徒デザインの情報用クリアファイル作成。（○）
-------------------------------------	--	---	---	--

府立りんくう翔南高等学校

<p>3 思いやりのある人間性をはぐくみ、未来の創り手となる人材を育成する。</p>	<p>(1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」を理解できる教育活動を進める。</p> <p>(2) 美化・健康・保健・衛生管理・防災への意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。</p> <p>(3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。</p>	<p>(1) ア・志学、道徳教育、キャリア教育等と連動した総合的な探究の時間やホームルーム活動を充実させる。 イ・生命の尊さを問う、また新型コロナウイルス感染症に係る偏見や差別を許さないなどの人権教育を充実させる。 ウ・全教育活動を通して、生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、機を逸することなく関係機関との連携にて校内委員会を開催するなど、組織として未然防止、対応、解決に向かう。</p> <p>(2) ア・事務室等との連携による施設、設備のより適正な維持管理に努める。 ・学校内外における美化活動及び清掃活動の充実に努める。 ・生徒保健委員会の取組みを充実させ生徒の健康意識の増進を図る。 ・食物アレルギー対応委員会を充実させ「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」の周知を徹底するなどし、事故の未然防止に努める。 ・喫煙防止、性感染症防止、薬物乱用防止教育の更なる推進。 ・憩いの場として、中庭（噴水）スペースの整備 イ・事務室等との連携により防災計画をより充実させるなど、防災意識の向上を図る。 ・地域の防災訓練に学校施設を貸し出すなど、地域ぐるみによる防災意識の向上を図る。 ・情報発信ツール活用の充実を図り、教育情報の効果的な発信とともに災害時における迅速な安否確認に努める。 ウ・新型コロナウイルス感染症に係る対応を充実させる。 エ・健康月間の設置 校内に設置された歯磨きスペースを活用し、歯磨き月間などを充実させる。 オ・学校3師による健康相談の実施。</p> <p>(3) ア・ボランティア活動を通じて、社会貢献の意識を高める。 ・部活動参加率は地域との連携を深め R5 年度には 35%とする。 ・クラブ活性化担当の配置、地域や外部人材との連携による部活動及びボランティア活動の充実を図る。 ・地域中学校との交流を推進する。 ・生徒主体の体育祭、翔南祭、学習発表会など学校行事を充実させる。 ・PTA 地域清掃活動を生徒会の通学路清掃と連携させて、生徒と PTA 役員が同時に校外で清掃活動を行う。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断による生徒の学校満足度（「自分のクラスは楽しい」の肯定意見）を 80%以上とする。 【74.4%】 イ・人権テーマ（同和問題、障がい理解などで当事者からの話を聞く等）を扱ったホームルームや職員人権研修を昨年並みに実施する。【生徒8回・教職員2回】 ウ・認知後は速やかに会議を開催し、対応、解決に向かう。【会議数：3回】</p> <p>(2) ア・校内照明の LED 化の促進少なくとも 30ヶ所の交換を実施する。 ・消防設備を計画的に更新する。消火ホース、感知器類を中心に約 80ヶ所を更新する。 ・校内草刈りを年間 3 回程度実施する。【4回】 ・有志生徒による一斉通学路清掃参加者を 80名程度とする。【40名限定】 ・生徒保健委員会の研究発表会を 2 回程度実施する。【コロナ禍のため未実施】 ・食物アレルギーに係る委員会を学期に 1 回開催する。【3回】 ・喫煙防止教室、性感染症防止講演、薬物乱用防止教室等を引き続き実施し肯定率を維持する。 【肯定率：喫煙防止教室 97.0%、性感染症防止講演 91.0%、薬物乱用防止教室 98.0%】 ・中庭スペースの整備は昨年並みの整備に努める。【6回】 イ・浜保育所との連携を継続させる。【2回】 ・ICT 活用に関する教員研修を 2～3 回実施し活用能力の向上を図る。【3回】 ウ・保健所や学校医など関係機関との連携を深める。【学校医による感染防止に関する研修等 2回】 エ・歯の健康月間として年間 2 回程度実施する。 【コロナ禍のため未実施】 オ・学校 3 師による健康相談を年に 5 回実施。（新規）</p> <p>(3) ア・部活動加入率を増加させる。【27.0%】 ・ボランティア部や生徒会が主体となり、体験活動ボランティア活動について、10 回程度の実績をめざす。【年 3 回延べ 15 名】 ・部活動について、中学校との連携回数を増加させる。【6回】 ・学校行事に対するアンケートでの肯定的意見を増やす。（63.7%）</p>	<p>(1) ア・学校満足度は 86.5%で昨年度比 12.1%上昇した。対面の行事の増加がその理由と考えられる。(◎) イ・生徒対象人権ホームルーム、講演会を計 8 回、教職員対象人権研修 2 回実施した。教職員対象には拉致問題動画視聴、同和問題についての講演を実施した。いずれも満足度の高い研修であった。また、生徒対象の講演においても、事後の感想より「共感できた・親近感がわいた」など多くの前向きな思いが確認できた。今後もより充実させ生徒、教職員の人権感覚を高めた。(○) ウ・SC、SSW も加わるケース会議 24 回実施。いじめ対策委員会 2 回実施。(○)</p> <p>(2) ア・校内照明 47 か所（うち 21 か所は高所）の交換実施。(○) ・消防設備 80 か所更新。(○) ・校内草刈り年 9 回実施。防草シート 600 m²設置。訪問客等から敷地の手入れが良いと感心されるようになった。(○) ・学校内外における美化活動について通学路清掃を PTA の協力のもと 7/8 と 12/14 に実施した。当初生徒の参加者は 60 名を想定していたが、108 名の希望があり、清掃ルートを増やした。2 回目は 79 名の希望があり、通常の 3 ルートで実施した。(○) ・各クラス教室の前に足踏みペダルの手指消毒を設置し、保健委員が消毒液補充の管理や、感染予防の呼びかけをした。年 3 回の美化週間で、保健委員が昼休みに放送で教室や廊下を清掃しキレイに保つことが、心身の健康にもつながること等のメッセージを伝えて、学校の環境美化につながった。(○) ・食物アレルギーに係る委員会を 4 月、10 月、2 月の 3 回実施。(○) ・喫煙防止教育講習会(99%)、性に関する講習会(100%)、薬物乱用防止教室(97%)と高い肯定率を維持している。(○) ・中庭の整備は、周辺 9 回、池の中 1 回で計 10 回。池の噴水も古いのが可動するように整備。(○) イ・保育所との交流では避難訓練時に手製おもちゃをプレゼント。【2回】(○) ・基礎力診断テストの ICT ツール活用研修を 1 回実施。既知の研修内容は電子メールで共有したため集合実施せず。(△) ウ・足踏みペダル式の手指消毒スタンド各教室に設置(18 か所)(○) エ・コロナの影響で歯の健康月間は設定できなかったが、歯科健診の結果報告をすべての生徒にコメントを添えて通知して歯の健康維持についての意識を喚起した。(○) オ・内科相談 4 回、歯科相談 11 回実施。内科は直接面談がなかったので、気になる相談を学校医に伝え、助言を生徒に還元する形をとった。歯科は虫歯の多い生徒を呼び出し、現在 8 名が歯科指導を受けている。(○)</p> <p>(3) ア・部活動加入率 26.6%で昨年度より微減した。(△) ・生徒会を中心に泉南警察との連携し交通安全活動、オレオレ詐欺啓発活動、泉南市図書館活動、地域清掃などに計 4 回延べ 20 人参加した。(○) ・中学との連携はバレーボール部を中心にのべ 11 回(1 月 16 日現在) 実施。本校で中学校の部活動を実施。3 月に近隣中学校参加のりんくう翔南杯も予定。(○) ・学校行事に対する肯定度では 80.4%で、昨年度比で 16.7%上昇した。(○)</p>
--	---	---	--	--

府立りんくう翔南高等学校

<p>4 新たな課題に取り組み組織の構築</p>	<p>(1) 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、いじめ防止、感染症対策、仲間づくり、インクルーシブ教育、教育相談、食物アレルギーなど、必要に応じたテーマで講演会や研修会を実施する。</p> <p>(2) 働き方改革を推進する。</p>	<p>(1) ア・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善（ICTを活用した授業実践に向けた研修）、偏見や差別を許さない、人権感覚の醸成、等の研修を実施し教職員の資質の向上に向かう。 イ・外部への授業公開を実施し、教員のさらなる授業力向上をめざす。</p> <p>(2) ・働き方改革推進のため週1回の定時退庁日（金曜日）に加え、月1回の特別定時退庁日（最終週の金曜日）を設置する。同時に、月間超過勤務対象者にはその都度書面の提出を求め、解決を図る。</p>	<p>(1) ア・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を年間10回程度実施する。 【11回】 イ・外部への授業公開を3回実施する。【4回】</p> <p>(2) ・月間超過勤務80時間以上の年間延べ人数延べ回数を減少させる。 【4名、延べ7回】</p>	<p>(1) ア・AED1回、人権2回、初任10年研交流1回、公費私費会計1回、不祥事防止6回、合計11回実施。(○) イ・外部紹介の授業公開は初任研、10年研等で合計10回実施。(○)</p> <p>(2) ・月間超過勤務80時間以上の年間6人数、延べ18回で増加した。当該教員とは産業医に加えて、管理職とも面談を実施して、勤務状況の改善について指導した。(△)</p>
------------------------------	---	--	--	--